

ワールドカフェの各テーブルで出された意見（全体まとめ）

○開催日：①令和7年2月10日（月） ○会場：長浜市民交流センター ふれあいホール
 ②令和7年3月25日（火） ○会場：高月まちづくりセンター 多目的ホール

○テーマ：「あなたは長浜の農業に何を夢みる」

テーブル	出された意見（課題・解決策・意見が出された経過等を含めて）	
A (2/10)	1	農家の後継者不足 求人を出しても応募がない
	2	農業への理解（消費者になぜお米が高いのか）
	3	つくりたくなる企画を考える 1つの商品に絞って、みんなでブランド ブランド（地元産）→プロモーション法
	4	ビニールハウスや機械等への支援が必要 初期投資が大変
	5	農道周辺にもごみのポイ捨ては多い 農道の進入口が機械の大型化とつり合わない
	6	学校給食のオーガニック実現化
A (3/25)	1	一経営体での農業従事者支援 作付面積の飛び地の田んぼ管理者変更 後継者不足の影響 1人当りのスマート農業の推進支援策について
	2	道の駅など畑で作っても作物の売上の2割を支払いにより売上金額の減少による負担軽減策、訳あり野菜商品の販売緩和、農機具購入の販売やレンタルの仕組み 農業従事者が管理する水路、水の管理の沼地や農地や農家の米などの価値を上げる
	3	学校給食に入札、農協の販売店ルートを活かして出来ないか 教育委員会のかかわりで、食育イベントや原材料の教育環境を広げる、農業機械の体験学習で農業の魅力の創出をすることにより魅力的な農業体験学習を行うなど意見ができました
	4	農業従事者で1,000人規模の農家を増やすことでの農業従事者の負担軽減策や価格を決める 基準のメリットで相場を上げる為に、農協の販売価格、あり方について課題や対応など意見がありました
	5	学校給食に入札、農協の販売店ルートを活かして出来ないか JAの米の販売、滋賀県出身の有名人などのイベントで米の販売やブランド化による付加価値 教育委員会の関わりで、食育イベントや原材料の教育環境を広げる 農業機械の体験学習で農業の魅力の創出をすることにより魅力的な農業体験学習を行う マルシェイベントと農業体験学習をする
	6	山間部で付加価値の高い田んぼでの作付け1反で、6俵の美味しい米の販売を行っている 地域の農家との連携調整で農地整備について 地主の管理の竹やぶの対応、田んぼの買い付けについて価格0円でも買い手がない 付加価値のある田んぼでの税金の支払いなど課題 農業従事者で1,000人規模の農家を増やすことや、価格を決める基準のメリットで相場を上げる為に、農協の販売価格、あり方について
	7	レーク滋賀など販売ルート、ブランド米、近江米の再分割されている、訳あり商品の販売について課題や対応について
	8	道の駅などは、畑で作っても売上の2割を支払いの負担軽減策、訳あり野菜商品の販売緩和 農機具購入の販売、レンタル、水路、水の管理の沼地や農地や農家の米などの価値を上げる 道の駅の手数料の負担軽減や価格競争、最低価格に設定、規格外農作物を販売ルート 子どもの食事など、農業体験学習で野菜の安全性について勉強しては、土を触る意識改革をすることにより、草刈りの体験学習など行う

テーブル	出された意見（課題・解決策・意見が出された経過等を含めて）	
B (2/10)	1	食料安全保障の理解不足 農業に興味を持つにはどうすればよい？ 作り手が作りやすいお米を作る 若い人たちが、希望をもって、入り口が簡単な農業をしましょう
	2	農業所得を上げて夢ある世界を見て、生活向上をしましょう 水稻での品種を単一に決めて美味しいお米を 法人、個人も作れて日本の有数の産地化をめざす→ネームバリューを上げる ブランド化を目指す
	3	高山市の取組み 他市・他産地に学ぶ 有機農業→県政・市政の援助→農協・農家へ 行政と担い手がタッグを組んで支援できる体制づくりを行う 後継者不足による人材不足 人材確保の必要性
B (3/25)	1	規格外野菜の販売の活路と学校給食での活用
	2	子どもたちに知ってもらうための、地元野菜やイチゴなどの学校給食での活用（旬の時に口にすることも大事・食育の体験）
	3	子どもたちに農業体験をしてもらう取組
	4	道の駅での販売方法（価格競争になっている面がある）
	5	スマート農業・ＩＣＴの促進
	6	野生動物の被害
	7	農作業の手間を減らすための区画整備（例：畔を減らすなど）
	8	農業は環境保全でもあり、そのことに係る材料等の支援が必要

テーブル	出された意見（課題・解決策・意見が出された経過等を含めて）
C (2/10)	1 農家の経営難、低給料、米は儲からない、若者は継がない 小規模農家は補助金がとりにくい 田んぼの後継者不足 人材不足、20～30haの営農組合が手放す可能性がある パイプハウス高い、資材高騰、物価高騰 米価高騰（適正水準以上）産地から離れてマネーゲームになってる→消費者の米離れに懸念 解決策：さらに集約化する。産地パワーアップ事業
	2 異常気象 高温障害（米・不稔、胴割れ、カメムシの大発生）
	3 環境保全：琵琶湖の水質改善 里山の荒廃、ジビエ・里山問題 森林保全SDGs しがリズム
	4 関係人口：二地域拠点（都会に住み田舎にセカンドハウスを持ち農業をする） 週末帰農、グリーンツーリズム
	5 食育・健康：木之本を中心に発酵のまちづくり、有機栽培・自然栽培推進、普及、農業政策が悪い 食育の重要性：人は腸活（善玉菌）土の健康（微生物）、食の見直し、環境にこだわり過ぎもどうか
	6 牛ふんが手に入らない（1反に2t）
	7 グランドデザイン：長浜の環境に合う農作物を作る 高く売れて、農家の手間が少ない農業、補助金の選定を変える 新しい特産物を作る 6次産業化（発酵） 一人にスポットをあてて底上げをする
	8 福祉とデザイン研究会 高齢者の方、主婦層が生きがい、張り合いのある農業にしていく
	9 複合的な中で食と農どういふところに求めるのか？ 補助金をどう活用するか 今でも再生協議会が真剣でない 有機農産物を増やしてほしい 市場経済では実現しない どう進めるのか。学校給食に有機農産物を使う請願が出た。どう進めるか？ 有機農業推進協議会を作る、しくみ作りをする
C (3/25)	1 地元コシヒカリ米のブランド化
	2 農地の集約化
	3 余呉地域の水田の排水整備(暗渠排水)
	4 地元の野菜を、生産者が直接販売できるようにしてほしいし、販売 場所も提供してほしい(道の駅のマージンが高すぎる)
	5 農福連携と援農
	6 地元コシヒカリ米の販売手法(ライン販売)

テーブル	出された意見（課題・解決策・意見が出された経過等を含めて）
D (2/10)	1 小規模農家は経営が厳しい 農業に関する補助金の使い道に課題がある (長浜再生協議会)
	2 具体的な指針がないように感じる仕組みをしっかりと構築し情報発信に取り組んでもらうことによって農業者の結束が図れる これからは「攻めの農業の時代」であると思う
	3 そもそも農家が夢見ることのできる施策支援が充分でない 農家=経営者の時代であるからこそ
	4 農家といえど大、小形態が違うし作物の適地適作がある上に、担い手不足をどのように解消するのかといった切実な課題がある
	5 ブランド力をあげるためには、均等な作物重視ではトップブランドはできない 例えば苺のトップブランドを一つ作れば「長浜の苺は美味しい」という流れができる
	6 里山の問題としてジビエによる食害対策に力を入れる必要がある オーガニック給食の推進に関する請願が採択されたが今後どうなるのか
D (3/25)	1 作物を作っても自由に売れるわけではないので直売できる場所が必要 どこかに出品すれば手数料をとられ、利益が残らない 何か新しいことにチャレンジしたくても農機などの設備投資はハードルがある 農機のレンタルやネットワークを活用できる体制がほしい
	2 訳あり野菜の基準が高く、給食センターなどに持ち込めない もう少し基準を緩和できれば「こんな野菜もあるんだ」と食育にも繋がると思う まっすぐな野菜などは普通に作ればできない 食品ロスの削減にも繋がる、給食センターが引き取れば良い
	3 田んぼと田んぼを合筆する作業を進めると機械化、大規模化していつている あぜを取りやすい制度になればありがたい 所有権の関係があつて難しい、草取りなどの作業が省略できる
	4 個人的に農業をやっていると年間を通して除草が大変、やってもやっても追いつかない 少しの手伝いでいいので人手が欲しい。安くて、人手不足を解消できる方法があれば 援農を活用した生産者と労働力のマッチングが実現できれば 農福連携（障害者の方に草むしりをお願い）の活用
	5 野菜を活用した加工食品は食品衛生法が厳しくなってきた 店舗販売ではラベルが必要だが、対面販売では基準が緩和される
	6 耕土改善ができて50年が経過した その当時の手抜き工事でうまく水が回ってこないで改善が必要。場所は余呉
	7 杉野では千枚田を圃場整備した。谷の水を引っ張って田んぼを整備した その他のもライスセンターを整備。先人と地域の力 国道303号線が新しくなると（丹生と杉本を結ぶ道）新しい人流ができる
	8 訳あり野菜を一つに集めて買い手とマッチングできる場所作り、長野JAではB級品ばかり 集めて販売している 協力的なJAもあるが市内県内のJAではお米や野菜が売ってくれない
	9 訳あり野菜の対策として消費者側の意識改革も必要 学校などで現場に行ったり社会教育をするべき。山の子、海の子、田んぼの子を導入する 実体験があると良い。市外に出てしまう若者も地元に戻ってくるきっかけになるかも 味噌作りなどの製造工程も面白い。タイバ、コスバだけではない

テーブル	出された意見（課題・解決策・意見が出された経過等を含めて）	
E (2/10)	1	人手が足りず、募集しても集まらない
	2	土地利用型（露地作物）への新規参入は農業大学校でもほぼゼロ 施設栽培は比較的利益性がよいが、近年の資材価格上昇により今後厳しい
	3	ハウス補助金を現状の厳しさに合わせた額にしてほしい
	4	農地を守るため（耕作放棄地にならないよう）に、大面積を耕作できる水稻農家を増やす
	5	急な規模拡大に対応した、運営資金や設備投資の支援
	6	農地集約が進まない
	7	南長浜など他事業でも、本当に必要な事業なのかを考え直すべき
	8	市や農政としてやっていること、やれることは何か
	9	長浜市農業再生協議会はもっといろんな立場の人が参画すべき
	10	地域経済活性化のためにも、ＪＡやＣＯＯＰと協力して地産地消の推進を
	11	若年層の農業従事者の確保。そのためにも一定以上の収入が大前提
	12	大規模化にすると人件費（給与）が発生するが、給与が低いと働き手がない
	13	安定した収入になるよう、農産物の価格ＵＰ
	14	地元生産者さんの作ったものを直接買うことができるシステム。そこに行政によるサポートもほしい
	15	有機農業の需要と供給の不一致
	16	市から県や国に物言うべき。市独自でできることはなにか。
	17	子どもたちに安全な食への観点からも、有機野菜の給食を週1回、月1回からでも
	18	市中心部に、農家が直接出荷・販売できる直販施設の設置
	19	廃棄物の堆肥等への利用（市がつなぎ役）
	20	新規就農者は水稻希望者が少ない（離農者と結びつけば）
	21	生産者との交流をかねた農業体験
	22	就農者同士の持続的コミュニティ。今回だけではもったいない。
	23	Ｕターンの理由に農業がない
	24	米の値段が上がっても儲からない